

さらめき

No. 71



R5. 10. 7 土曜授業「アイヌ文化体験」

「アイヌ文化体験 伝統と文化」

～アイヌ文化体験を通して、言語や暮らしについて学ぼう～ (久根別小学校)

人と、未来と、ほくと。



令和5年度 北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

この調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、調査は実施教科が小学校・中学校ともに限られた教科のみで、学習指導要領の内容全てを網羅するものではありません。したがって、結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。この結果のみで、学校や児童生徒を評価できるものではありません。

また、北斗市教育委員会では、例年同様、市全体及び中規模・大規模の小中学校の調査結果のみ公表いたします。今後も、北斗市の学校は、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の整備に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

北斗市教育委員会

調査の概要

○ 調査実施日

令和5年4月18日(火)

※英語「話すこと」調査は4月27日

(木)～5月19日(金)

1 調査の対象

- ・小学校第6学年の児童
- ・中学校第3学年の生徒

2 教科に関する調査

- ・小学校：国語・算数
- ・中学校：国語・数学・英語

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようなっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

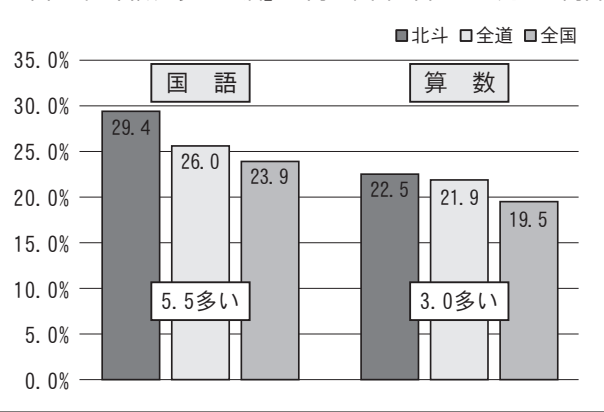
- ①児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ②学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

小学校

1 教科に関する調査

○国語・算数ともに、全国・全道平均を下回り、昨年より差が広がりました。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



北斗市内小学校各教科の平均正答率 (%)

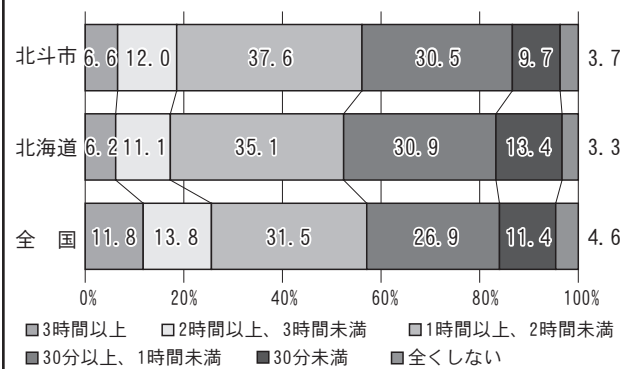
6年生 351人

	国語	算数	合計
北 斗 市	64	60	124
北 海 道	66	61	127
全 国	67.2	62.5	129.7
道との差	-2	-1	-3
全国との差	-3.2	-2.5	-5.7

※北斗市・北海道の平均正答率は国が公表した整数値

○問題の分類別正答率でも、全国・全道を下回りました。

①学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

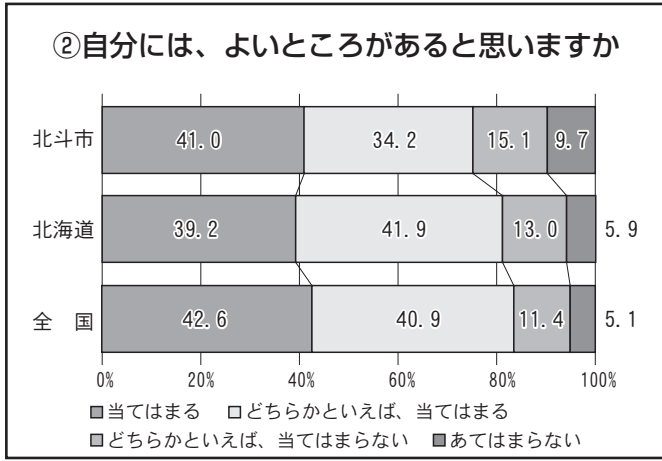


○問題を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。

2 児童への質問紙調査

①平日、1時間以上、家庭学習をしている児童の割合は、全道を上回り、ほぼ全国平均並みです。30分未満または、全くしないと回答した児童は、全道・全国を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。

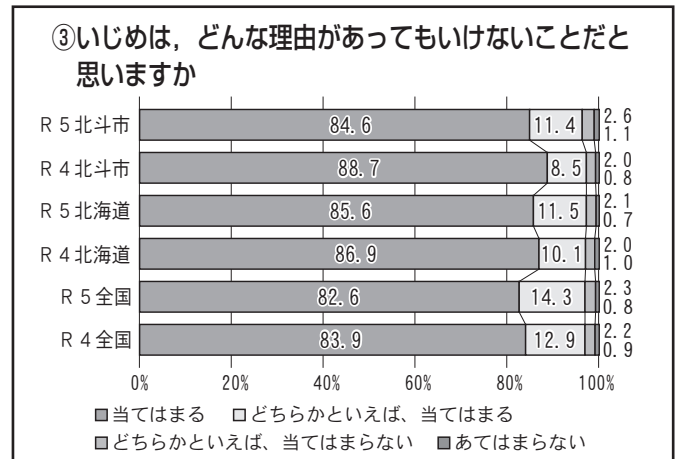
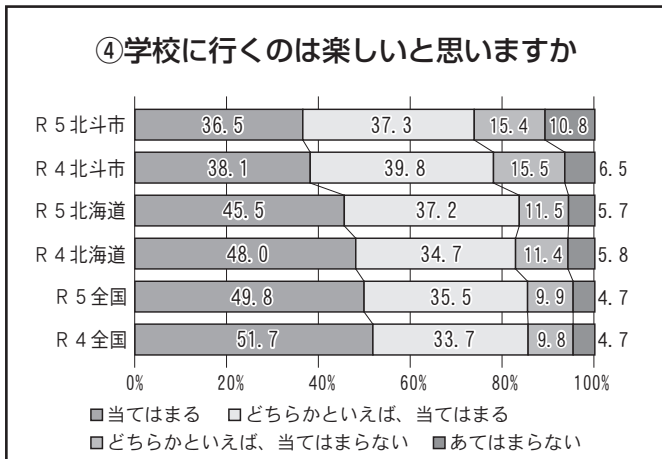
○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。「正答数の少ない層」の割合は、少ないほど望ましいこととなります。今年度、小学校では、「正答数の少ない層」が、国語で5・5割、算数で3・0割、全国より多くなり、目標を達成できませんでした。



② 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えている児童の割合が、全道を上回っています。しかし、24・8%の児童が否定的な回答で、全国・全道を上回っています。

③ 過去の調査では、はじめは絶対いけないという意識は、全道・全国より高いものがありました。しかし、今年度は、全道を下回りました。また、否定的な回答は、全道・全国を上回りました。以前は見られなかった結果です。

④ コロナ禍の一昨年は、楽しいと感じる児童の割合が大きく減りましたが、今年、多少回復しました。しかし、今年度また、楽しいと感じる児童の割合は減少しました。否定的な回答も多く、改善しなければならぬ課題です。



- ② 児童の学習意欲向上のために
- ① わかりやすい授業のために
- ・音読の時間を設定する。
 - ・教科担任制や少人数指導などにより、授業の質の向上を図る。

【課題解決・改善の取組】

小学校4校の平均正答率 (%)

	国語	算数	合計
A	63	57	120
B	67	65	132
C	63	58	121
D	64	59	123

※各校の正答率は国が公表した整数値

- ⑥ その他の取組
- ・家庭学習の具体例を提示するなど、自学自習に向けて指導を行う。
 - ・ネットドリルを活用する。
 - ⑤ ICT機器を活用して
 - ・ICTを活用し、学習の記録やまとめを行う。

- ④ 児童が主体的・対話的で深い学びに向かうために
- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行う。
 - ・表現力を向上させるため、「振り返り」や「交流の時間・場」を確保する。
 - ・「学習のきまりチェックシート」等の取組を児童が主体的に考え、実行できるように工夫する。
 - ・子どもたちに、「やりきる」活動を保障する。

※その他、「朝食を毎日食べている児童の割合」は、年々下がっており、北斗市73・5%（昨年77・7%）、北海道80・7%（昨年81・5%）、全国83・7%（昨年84・9%）と全道、全国を下回っております。

また、昨年度まで、あったゲームやスマホなどの時間に関する調査は、今年度は、ありませんでした。

3 学力向上の取組

- ③ 学習内容の習得・定着のために
- ・条件に合わせたり、資料を活用して、考えをまとめたりする力を培うため、全校で条件付き作文に取り組む。
 - ・「めあて」「まとめ」だけではなく、「振り返り」の時間を確保し、学びの深化に努める。
- ④ 児童が主体的・対話的で深い学びに向かうために
- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行う。
 - ・表現力を向上させるため、「振り返り」や「交流の時間・場」を確保する。
 - ・「学習のきまりチェックシート」等の取組を児童が主体的に考え、実行できるように工夫する。
 - ・子どもたちに、「やりきる」活動を保障する。

中 学 校

1 教科に関する調査

○国語・数学・英語の全教科で、全国・全道平均を下回りました。国語・数学で昨年度より差が広がり、英語で前回実施の平成31（令和元）年度より差が縮まりました。

○問題の分類別正答率でも、全国・全道を下回りました。

北斗市内中学校各教科の平均正答率（%）

3年生 379人

	国語	数学	英語	合計
北 斗 市	68	47	43	158
北 海 道	69	49	44	162
全 国	69.8	51.0	45.6	166.4
道との差	-1	-2	-1	-4
全国との差	-1.8	-4.0	-2.6	-8.4

※北斗市・北海道の平均正答率は国が公表した整数値

○中学校でも、「正答数の少ない層」を減らす努力をしています。

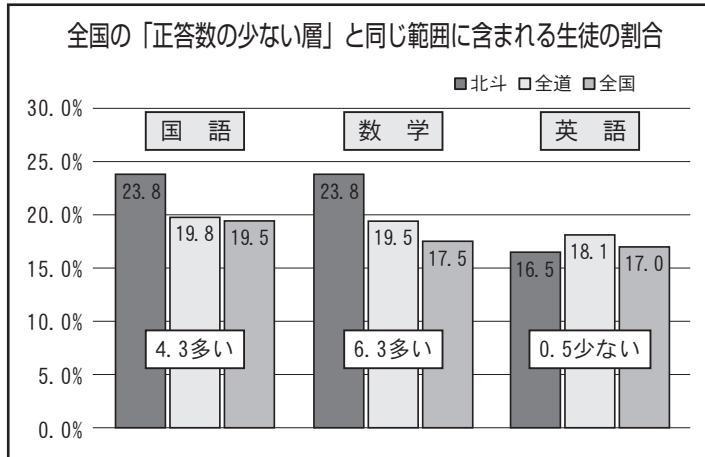
今年度は、国語で4・3割、数学で6・3割、全国より多くなりましたが、英語で0・5割少なくなりました。

平均正答率が、全国を下回った英語で、「正答数の少ない層」が全国より少なかったということは、英語に関しては、ある程度、底上げが図られたと言えます。

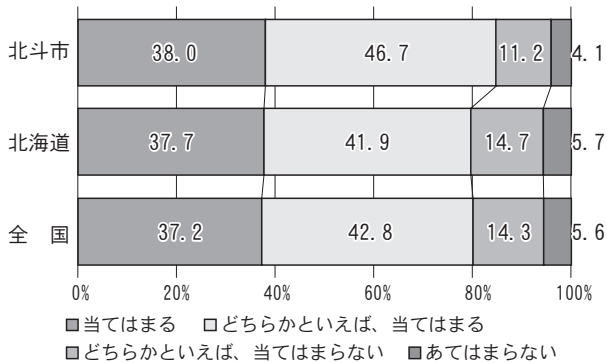
2 生徒への質問紙調査

①1時間以上、家庭学習をしている生徒の割合は、全道を上回り、ほぼ全国平均並みです。30分未満または、全くしないと回答した生徒は、全道を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。

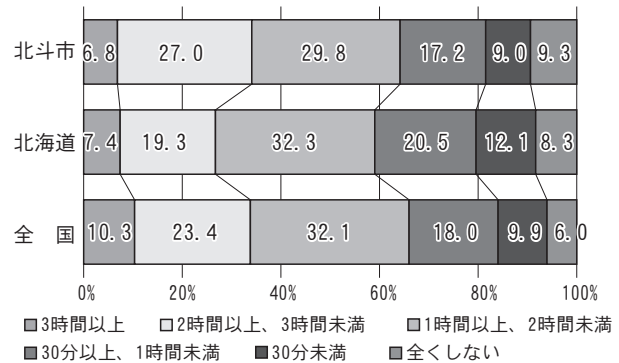
②「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている生徒の割合が、全国・全道を上回っています。



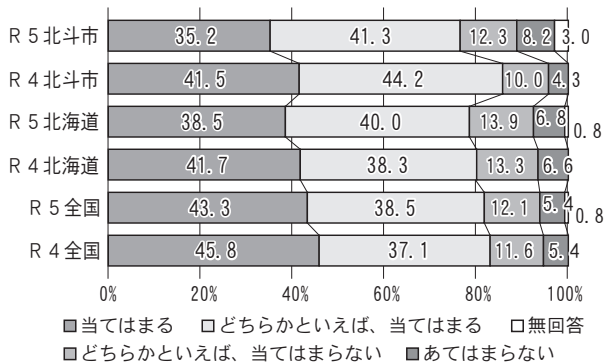
②自分には、よいところがあると思いますか



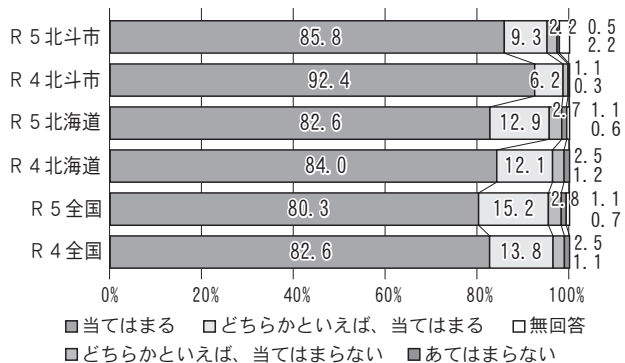
①学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



④学校に行くのは楽しいと思いますか



③いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



③過去の調査では、はじめは絶対いけ
ないという意識は、小学生と同様、非
常に高いものがありました。今年度は、
「当てはまる」と答えた生徒の割合は、
全道・全国を上回ったものの、北斗市
としては、昨年度より6・6_{ポイント}も下
りました。

④小学生同様、コロナ禍の一昨年は、楽
しいと感じる生徒の割合は、大きく減
少しましたが、昨年、多少回復しまし
た。しかし、今年度また、楽しいと感
じる生徒の割合は、減少しました。否
定的な回答も多く、改善していかね
ればならない課題です。

※その他、「朝食を毎日食べている生徒
の割合」は、年々下がっており、北斗
市73・0%（昨年77・8%）、北海道
75・4%（昨年77・4%）、全国78・
6%（昨年79・9%）と全道、全国を
下回っております。

小学校と同様、昨年度まであった、
ゲームやスマホなどの時間に関する調
査は、今年度は、ありませんでした。

3 学力向上の取組

○小学校同様、中学校でも明らかにな
った課題を解決するため、結果を分析し、
改善に取り組んでいます。

【課題解決・改善の取組】

①わかりやすい授業のために
・習熟度に応じた少人数によるコース分
けを行い、理解度に合わせた授業を展
開する。

・3K（考える・会話する・行動する）
授業を行う。

中学校3校の平均正答率 (%)

	国 語	数 学	英 語	合 計
A	66	47	40	153
B	65	43	39	147
C	73	51	50	174

※各校の正答率は国が公表した整数値

・授業の中に「考える場」「判断する
場」「行動する場」を設定して取り組
む。

・生徒による授業評価（アンケート）を
実施する。

・問題の状況が理解できているかを細か
く確認、説明する。

・全国学力・学習状況調査の結果を踏ま
え、「授業アイデア例」を活用する。

②生徒の学習意欲向上のために
・シラバス（計画と振り返り）を作成・
活用し、「目標」と「何ができるよう
になるか」を生徒と共有しながら見通
しを持って学習活動を進めている。

・学校と家庭の学習をつなげる活動を毎
日行う。

③学習内容の習得・定着のために
・記述問題について答え方・書き方の練
習を繰り返し行い、生徒同士の教え合
いの場も設ける。

・記述での答え方に慣れるため、さまざ
まな条件のもとに文章を書く機会を設
ける。

・課題、まとめ、振り返りを明確にし、
学習の定着を図る。

・基礎的・基本的な知識・技能の定着を
図るため、T・Tによる授業を実施し
ている。

○今年度の調査で、北斗市の子どもた
ちは、全ての教科で、全国・全道平均
を下回りました。これは、小学校で平
成24年以来、中学校で平成26年以降の
ことです。小中がそろって下回るのは、
この全国調査が始まって2年目の平成
20年以降となります。各学校では、こ
うした調査結果を重く受けとめ、実施
学年の学力の保障と学校全体の学力向
上に向けて取り組んでいるところです。

子どもたちの健やかな成長のために

・問題演習の際に、教え合い、学び合
いを入れ、定着に結びつける。

・英語で、語順定着、文法の確認、書く
演習のためにペア・グループ、発表活
動を取り入れている。

④生徒が主体的・対話的で深い学びに向
かうために
・学んだことを自分の言葉でまとめたり、
人に教えたりするなど、アウトプット
を意識した発問や課題の設定を行う。

⑤ICT機器を活用して
・ICT機器を活用して、多様な考え方
を共有する授業を行う。

・試験前の生活習慣について、今までは
用紙（生活リズムチェックシート）に
記入していたが、タブレットフォームに
入力し、把握と分析を行えるよう、改
訂を進めている。

⑥その他の取組
・家庭学習の具体例を提示するなど、自
学学習に向けて各学年に応じた指導を
行う。

・日常的に英語に慣れさせるためオー
ルイングリッシュ的要素を取り入れた授
業を行う。

・学習環境の整備を行う。

○そんな北斗市の子どもたちを心豊か
に育てていくため、各ご家庭におかれ
ましては、子どもたちが安心できる環
境を、市民の皆さまにおかれましては、
温かい励ましをお願いいたします。

（教育委員会 指導室）

学芸会

最後まで みんなの思い 届けよう

市渡小学校

10月14日(土)、「学芸会」を実施しました。今年度は、参観の人数制限をなくし、たくさんのお客様の方々を観ていただくことができました。2学期がスタートしてから、少しずつ練習を重ね、学芸会特別日課を経て、各学年が趣向を凝らした楽しい発表をしました。

1年生は、カスタネットを使ったリズム打ち、合唱、器楽合奏を披露しました。「はじめの言葉」では音楽に合わせて、ゆかいな振り付けで踊りながら発表しました。

2年生は、教科書にも載っている「アレクサンダとぜんまいねずみ」の物語を劇で発表しました。身振り手振りを交え、ゆっくりはつきり大きな声で、4人という少ない人数を感じさせない堂々とした演技を披露しました。

3年生は、初めてのリコーダーでの合奏、手話の振り付けをしながらの合唱、跳び箱など得意なことの個人発表、器楽合奏と、盛りだくさんな内容でした。

一人一人が自分の役割に責任をもち、

それぞれの持ち味を生かした発表をすることができました。

4・5年生は、ジブリの世界をリコーダーや合唱、器楽合奏で表現しました。「カントリーロード」をアレンジした合唱とともに、これまでの学校生活を動画で紹介したり、全員の音と気持ちを合わせて演奏したりすることができました。

6年生は、「まねし小僧」という劇を発表しました。コミカルな演技で笑いを誘いつつ、自分がされて嫌なこととはしないことや、相手を思いやることの大切さを伝えました。「おわりの言葉」では、各学年の発表を振り返り、観てくださった方々に最高学年としてお礼の挨拶をしました。

学芸会の取組を通じて、子どもたちは互いの努力を認め合ったり、協力したりすることのよさを味わい、更に自分自身を成長させたいという気持ちを強くしていました。これからも学校は、子どもたちの成長を支える教育活動を充実させていきたいと考えています。



1年生の発表
「はじめの言葉」



2年生の発表
「アレクサンダとぜんまいねずみ」



3年生の発表
「せいじゃの行進」



4・5年生の発表
「いつも何度でも」



6年生の発表
「まねし小僧」

(市渡小学校 教諭 塚原 智子)

石別合同ふれあい文化祭

笑顔と元気そして真剣に頑張る姿を

地域の皆さんにお届けしました

石別小学校

10月21日(土)、石別中学校との合同文化祭が行われました。今年度のテーマは『Smile makes us happy』。これは「自分たちの姿を通して、家族や地域の人たちが笑顔になり幸せを感じてほしい」という願いが込められていました。日頃から温かく学校を見守ってくださっている方々に最高の姿を見てもらえるよう、たくさん練習を重ねてきました。



全校劇「ほんとうの宝物は」のエンディング

アイヌの歌や踊り ムックリの演奏披露



文化祭は、小・中学校交互に演目を発表する形で行いました。開演前の子どもたちはかなり緊張していましたが、器楽・手話を交えた歌・アイヌ文化・劇・

中学生との合同太鼓すべての演目に、これまでの練習の成果をみながら力を合わせながら発揮し、しっかりと表現することができました。



全校器楽はYOASOBIの「アイドル」に挑戦



全校合唱「世界中の子どもたちが」で手話に挑戦



PTAバンドはサザンの曲を演奏



七飯養護学校おしま学園分校も作品展で参加

校長は挨拶で、「文化祭の最大のねらいは、日頃の学習の成果を発表し合い、自分の学びを更なる向上につなげることで。そのためには、自分が楽しみながらやり遂げて、友だちとお互いの良さを共有し、輝く笑顔と元気を地域の皆さまにお届けしましょう」と、話していました。演劇では、子どもたちが一人何役もこなし、器楽でも複数のパートを一人で演奏するなど、小さい学校ならではの頑張りを見せてくれました。

さらに、「私たちが、みんなが元気になることがしたい」と、PTAによる器楽演奏を行いました。大人たちの普段は見ることもできない姿を、地域の方や子どもたちにも楽しんでもらうことができました。

エンディングの合同太鼓は、事前練習が1回しかできませんでしたが、本番では21名による、息が合った迫力のある演奏で、ふれあい文化祭を締めくくりました。



今回の文化祭で経験した学びを、これから出会う新たな学びにつなぐことができるよう、教職員が丸となって、全力で子どもたちを支援していきます。

学校の様子はいつでも見学することができます。興味がある方は、気軽に学校までご連絡ください。

石別小学校
ホームページ



(石別小学校養護教諭 今 香織)

本校ならではの外国語活動

茂辺地小中学校では、日頃から外国語に親しむ活動に取り組んでいます。毎週火曜日と木曜日はイングリッシュデイとし、先生方や友達と廊下ですれ違ったりしたときに英語であいさつをするなど、楽しく慣れ親しめる環境の中でさまざまな取組をしています。今回は本校の外国語活動について紹介します。

朝英語の紹介

本校では、外国語推進委員会の教諭が中心となり、年間の指導計画に沿って、毎週火曜日と木曜日の朝に、英会話活動を行っています。中学校では、今年度から朝英語を本格的にスタートしました。自己紹介や好きなことなど、簡単な表現内容ではありますが、生徒たちは短い時間で、たくさんの方と英会話を通してコミュニケーション活動を楽しんでいます。必ずしもスラスラ完璧な英語を話さなければいけないということではなく、自然体で楽しく、失敗をしてもなんとか伝えようとするこの活動が児童生徒の自信にもつながっています。



ALTと英会話をしている様子(中学校)



校長先生と英会話をしている様子(小学校)

イングリッシュキャンプ

今年度は夏休み初日の7月27日(木)にイングリッシュキャンプイン茂辺地が開催されました。主催は北斗市教育委員会ですが、茂辺地小中学校でも児童生徒そして教職員も積極的にこの活動に参加しています。茂辺地町内を歩き回りながら、先生、ALT、遺愛高校生、北斗市の職員の人たちと簡単な英会話を通してコミュニケーションを楽しみました。午後の活動では、グループに分かれ、遺愛高校生のリードで、感想などを英語で発表しました。どの児童生徒も自信に満ち溢れた笑顔で活動を終えることができました。



パンフレット配布活動

中学校では茂辺地の魅力をたくさんの方にPRしようという目標の下、茂辺地のパンフレットを作成しました。パンフレットは、日本語と英語の2カ国語で表現しています。2年生の宿泊研修(函館市内)や、3年生の修学旅行(岩手県)でも配布活動をしました。伝えたいことをみんなが話し合いながらパンフレットを作成し、10月28日(土)には、数年ぶりに小中合同で函館駅周辺に行き、観光客に向けた配布活動をしました。道行く観光客に話しかけることはとても勇気のいることでした。児童生徒はペアで協力しながら外国人や日本の観光客にパンフレットを配布し、茂辺地の魅力をPRすることができました。今後は、これらの活動の成果と課題をまとめ、11月25日(土)にふるさと学習として、発表会をします。



パンフレットを見せながら外国人観光客にPRしている様子

パンフレットPR後に快く写真撮影に応じてくれました。



ハロウィン集会

毎年10月末に茂辺地小中学校ではハロウィン集会を行います。北斗市のALT4人にも参加してもらい、「トリック・オア・トリート」と言いながら校内を歩き回り、先生方やALTたちと簡単な英会話活動を行い、キャンディーをもらい楽しみました。

先生方やALTたちと英会話活動をしている様子



クリスマス集会

クリスマスの時期になるとクリスマス集会を行います。今年は、中学生がどんな活動をしたらよいか、企画を考えて進めていく予定です。小学生が楽しんで英会話活動ができるように考えることもとても大切な取組です。



昨年のクリスマス集会。ポージングゲームをしている様子

(茂辺地中学校 教諭 會津 聡子)

外国語教育の取組

北斗市では、英語教育の充実を図り、グローバルな視野をもつ子供を育てることを目的に、外国語プロジェクトが組織されています。このプロジェクトは主に校長会と教頭会が中心となり活動しています。

本市には4名のALT（外国語指導助手）が配置されており、それぞれの持ち味を生かした楽しい英語教育が全小中学校で行われていますが、そのALTとの連携を保つのが本プロジェクトの重要な課題となっています。1年間に4名の異なった外国人指導者と触れ合えることは市内の小中学生にとって、かけがえのない経験です。廊下で気さくに「ハロー」と話しかける姿を見て、本市での恵まれた教育環境の中で育つ子供たちが、将来大きく国際社会に羽ばたいていく姿を想像することができます。

また、本プロジェクトが中心となって、9年間を見越した英語教育課程の概要が作成されており、各校では、それを基に教育活動が組み立てられています。小学校で3段階、中学校で3段階ずつそれぞれの大きな目当てが設定されており、指導者がそれに沿って授業を進めることで、学校間の指導内容が少しでもそろえよう、計画されています。

さらに、その教育課程に合わせて、9

年間のCAN・DOリストも作成されています。これは、子どもたちが英語でできることをリスト化したもので、「英語の授業でできるようになったこと」を子供たちが自身で振り返ることができることを目的として組まれたものです。

加えて、先述した教育課程の概要の中では、各段階における英検チャレンジ目標が示されています。英検受検は、子供たちにとっては一つハードルの高いものではありませんが、市の補助制度を周知するチラシを配布するなどして、受検者を増やし、より自信をもって英語活動に臨めるよう取り組んでいます。

英検に関しては、道教委が推進する、6年生対象の英検ESGを実施し、リスニングとリーディングにおいて、小学英語でできるようになったことを振り返るとともに、英検の受験意欲を高めるよう指導に生かす取組も進めています。

小学校では次年度より教科書が改訂され、さらに英語教育への期待や関心が高まることが予想されます。本プロジェクトでも、教育課程の概要やCAN・DOリストの教科書に合わせた見直しをきめ細かく行い、さらに英語教育が充実するよう、努めていきたいと考えています。

（北斗市校長会外国語プロジェクト

上磯小学校長 後木 明生）

ゲーム障害とネット依存

長時間のゲームやスマートフォンによるインターネット利用で体調を崩し、頭痛や居眠り、無気力など、保健室で対応することが多くなってきました。

内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、中学生の平日1日のスマートフォンによるインターネット利用時間は、2013年で平均86・6分、2021年には約2倍の161・6分に増加しており、子どもたちの1日の活動時間に占める割合は年々増加傾向にあります。

WHO（世界保健機関）は、2019年に「ゲーム障害」を新たな病気として正式に認定しました。「ゲーム障害診断」の4項目すべてに当てはまり、12カ月続

く場合に「ゲーム障害」と診断され、当てはまる様子はないでしょうか？

ネット依存になってしまう背景には、日常のストレスを紛らわせるため簡単にワクワクや楽しみを得られるスマートフォンに頼ってしまう事があると考えられます。思春期を迎える小学校高学年から中学生では特にストレスを抱えやすく、一層その傾向が強まります。利用のルールを家庭で決め、規則正しい生活を送るよう指導することは大切ですが、厳しく注意することが逆効果となってしまうこともあります。生活全般を見渡し、スマートフォンやゲームでストレスを解消する生活から、その方法以外に価値のある世界に目を広げる声かけや、大人がスマートフォン以外の活動を楽しみ、モデルとなることも良いと思います。また、家庭や学校では、子どもがストレスについて大人に相談できる雰囲気づくりも大切です。

内閣府のホームページ「ネットの危険から子供を守るために」で検索すると、指導に役立つリーフレットが多数ありますので、参考に見てみてください。

【ゲーム障害診断】

いくつ当てはまりますか？

- ゲームをする時間をコントロールできない。
- ほかの生活上の関心事や日常の活動よりゲームを優先する。
- ゲームによって問題が起きているにもかかわらずゲームを続ける。
- 学業や仕事、家事などの日常生活に著しい支障がある。



内閣府2022年1月発行リーフレットより

（北斗市学校保健会

上磯中学校養護教諭 本間 裕子）

おどろろろろ

から始めるのもいいね！
スポーツ推進委員・座談会



市民の健康づくりや運動能力の向上に向けて、北斗市では幼児から高齢者まで、各種スポーツ講座やイベントが幅広く開催されています。

今回、小学生のスポーツに対する関心をアンケートで調べてみました。その結果を参考に、「みんなでスポーツに親しむ」をテーマに、スポーツ推進委員・北斗スポーツクラブ代表・市社会教育課職員と小学校教諭の四者で座談会を開催し、それぞれの立場から思いを伝え合ってみました。



【座談会 参加メンバー】

たくさんの方々の応援をいただき好評でした。ただ、いつの間にか「勝つ楽しさも味わわせたい」というムードも出てきました。一方、「幼児期から勝つことを教えるのはどうか」という考えもあります。新たにスポーツをしてみたいという気持ちと、「上達したい」というどちらの気持ちも大切にしながら、スポーツイベントを創っていくことが、必要だと感じています。」

▼安達（以下・安）



安達 孝義さん
市スポーツ推進委員 委員長

「以前、幼稚園に勤めていたとき、サッカーに取り組みました。強制せず自由に参加させ、「つまらない」とやめた子どもが、数日後、ボールを蹴りにきたときの姿には感動しました。プレー中にボールがぶつかることもあるし、負けると泣き出す子どももいます。でも、日に日にサッカーの面白さを知りまわっていききました。幼児期のスポーツには、勝ち負けよりも『自由に参加できる』場が用意されていてほしいですね。また、「楽しかった」「次はがんばる」として完結できるように、声かけをする力が大人にも問われているのかもしれないですね。」

▼秋山（以下・秋）



「小学生の意見から、ドッジボールに取り組みたいという声が多かったです。校内での経験もあるし、もっと上達したい。他校との交流や指導の機会もほしいようです。」

▼千秋（以下・千）



千秋 栄さん
北斗スポーツクラブ Noss 代表

「以前、幼稚園や保育園の交流をねらいに、サッカーイベントを開催しました。」

▼木島（以下・木）

「スポーツの入門期ですから、これからは大会を主催する側にも、大会が開

誰でも来ようを創りたい

かれている趣旨を、より理解してもらい必要があると思います。そして、自由に子どもたちがスポーツに参加できるように、これまで以上に、学校や保護者にも伝えていくことが必要だと感じます。」



木島 悠さん
市社会教育課 社会教育係 主査

秋「さまざまなスポーツが体験できる『フェスティバル』の開催はどうでしょうか。これも小学生の要望として多かったです。」

千「北斗スポーツクラブでは、総合運動公園を会場に、スポーツフェスティバルを開催しました。また『きじひき高原まつり』のときには、野外運動広場を開設しました。ストラックアウトなど、大変好評でした。」

▼秋「そのような楽しいイベントを行っている」と



秋山 範光さん
市スポーツ推進委員 小学校教諭

秋「そのような楽しいイベントを行っている」ということを、よりたくさんの人に知ってもらうために、SNSを含め広報活動を強化することも必要ですね。」

◆木「年齢や足の速さも関係なく、気軽に参加できる競技も必要だと思います。例えば、動きを止めずに、片足

を長い時間浮かせながら、小刻みに進むという『遅ければ勝ち』のような種目が、スポーツの集いやスノーフェスティバルにもあると参加者が増えるかもしれませんね。」

千「小学生の意見の中にあつた『逃走中』、この意見は、とても面白いですね。ハンターを大人がやるんですよ。（苦笑）」

木「ストラックアウトで3枚抜いたら、ハンター放出が阻止されるとか、スポーツの要素も取り入れると面白そうですね。」

安「おにごっここのようですね。大人と一緒に遊んで、楽しむところから始めるという場としてはいいかもしれませんね。」

秋「スポーツに興味をもってもらう企画を一步一步進められたらいいですね。今回、スポーツに携わる子どもたちや、運営される方に意見を聞いてみるこの大切さを、改めて感じました。」

追記 座談会后、Nossでは、からだ・スポーツ・美容等の楽しい講座が、たくさん開設されていることを知りました。（秋山）



NOSS ホームページ NOSS インスタグラム

（北斗市スポーツ推進委員 秋山 範光）

露風がつかないだ2つの「市」

～北斗とたつの～

みなさんが、当たり前のように耳にすることになった童謡「赤とんぼ」。なぜ、この曲がお昼と夕方に防災無線から流れているかご存知でしょうか。日本で最も愛唱されている「赤とんぼ」は、三木露風がトラピスト修道院で作詩した曲であるからです。

そして、来たる11月4日(土)、兵庫県たつの市の霞城館にて露風に関わる特別展及びシンポジウムが開催され、たつの市より招待を受けた池田市長は、露風が生まれ育った故郷の風土を肌で感じてきました。

たつの市は、三木露風の生誕地であり、子どもたちの健全育成と児童文化の風土作りを目指し、「童謡の里宣言」を行っている情緒溢れる城下町です。露風を通して、遠く離れたこの2市が結ばれたご縁を大切にし、今後も友好な関係が継続されることを祈っております。
また、ご家庭に眠っている露風や赤とんぼにまつわる資料のご提供をお待ちしております。



シンポジウムで挨拶をする池田市長

「北斗遺跡ものがたり」番外編「ミコロム 三木露風とトラピスト」

わたしたちの暮らしに今やなじみ深いメロディーとなった名曲「赤とんぼ」。この郷愁あふれる歌詞が生まれる切欠となった、三木露風とトラピスト修道院の縁はいかにして結ばれ、そしてそれは彼にどんな影響を与えたのでしょうか。今回は、それについての「ミコロム」です。

三木露風(本名・三木操)は明治22年(1899年)に兵庫県揖西郡龍野町(現・たつの市)に生まれました。

創作をはじめたのは小学3年生のころ、恩師の影響により俳句を詠み始めたのがきっかけでした。当時詠んだものには、後に童謡「赤とんぼ」の詞の一節となる「赤蜻蛉とまつてゐるよ竿の先き」という一句もあります。

露風は16歳にして初の作品集である『夏姫』を自費出版し、上京の後は当代表する象徴詩(心情などの主題をそのまま直接的な言葉にするのではなく、音楽的・暗示的な手法で象徴的に表現する詩)の作家として北原白秋と並び評されるなど、若くして名声を得た人です。しかし、その作家人生は常に順風満帆だったわけではありませんでした。
明治43年(1910年)から3年間、

露風は一時文壇での居場所を失い、「(苦い)懷疑」「(良心)『美学草案』」つまりは人間不信を抱えながら放浪の日々を過ごす事態に陥ってしまいました。

これに光を射したのが、東海道を放浪した際の静岡・沼津天主公会堂でのピリング神父との出会いでした。この時触れたキリスト教の教え、そして日々の修道生活は彼の傷ついた心を癒すと共に、彼の詩作そして人生そのものに大きな影響を与えることとなります。

やがて文壇に再び咲いた露風ですが、さらなる詩作の境地を求めふたたび沼津公会堂を訪ねます。そこで勧められたのが、トラピスト修道院の訪問でした。

露風が初めてトラピストを訪れたのは大正4年(1915年)のことでした。そこに広がる当別の大自然の中、信仰のもと日々を過ごす修道士たち、そしてその先頭に立つプリーエ院長の姿に深く感銘を受けた露風は、同年その感動を詩集『良心』として上梓。その後も毎年のように同院を訪れ、ついに大正9年(1920年)、プリーエ院長の懇願を請け、修道士たちの文学講師として赴任します。著書『詩歌の道』の中で露風は、「修道院の廊下では一切の生活が象徴的意義を有すると私は感じた」と述べています。日々の暮らしの所作ひとつひとつが、特にそう明言しなくともその身に秘めた信

仰のあらわれである…これが「かたちにして明示せず目指すものを表現する」という象徴詩の姿と重なったのでしょうか。

また、当別の大自然の中の暮らしは、処女作『夏姫』に見られるような、彼の詩作の原点である自然への憧憬をも再び呼び起こしたのではないのでしょうか。

ふるさとを出、長く険しい道程と深い詩作への探求を経て、自らの心を救った信仰に導かれ辿り着いた地に広がる、大自然という自らの原点との「再会」。そう考えると、ここ北斗でつむがれた「赤とんぼ」の詩が、彼の故郷・たつので詠まれた「赤蜻蛉とまつてゐるよ竿の先き」の句でしめられた意味、そこにこめられた思いが伝わってくるような気がします。

露風はその後大正11(1922)年に洗礼を受け、修道士たちに教授を行うとともに自らも修道生活に励み、新たな詩作の境地を開きます。この生活は彼にとって「今最も人間らしい人々の中で暮らしてゐる」(『美学草案』)と表現するほど満ち足りたものでしたが、病のため大正14年(1925年)に志半ばにして修道院を去ることとなります。

帰京後も露風はトラピストに思いを寄せ、『信仰の曙』等の詩集や修道生活を基にした『美学草案』『詩歌の道』などの詩歌論・随筆等、数多くの作品をのこしています。(郷土資料館 時田 太郎)

第2回北斗市二十歳を祝う会

開催日／1月7日(日)
 時間／午後1時から 正午開場
 会場／総合文化センターかなで～る 大ホール
 対象者／平成15年4月2日から平成16年4月1日
 までに生まれた方
 問い合わせ／教育委員会社会教育課



きらめき大学・浜分ふれあい大学 せせらぎ大学

新入生
募 集

- きらめき大学
金曜日：午後1時から午後3時
総合文化センター かなで～る
 - 浜分ふれあい大学
水曜日：午前9時30分から午前11時30分
浜分ふれあいセンター
 - せせらぎ大学
火曜日：午前9時40分
北斗市公民館
- 対 象／満60歳以上の市民
 開 設／4月～11月
 費 用／それぞれの大学ごとに異なります。
 申込み／総合文化センターかなで～る、北斗市公民館、各支所に設置されている申込用紙で申し込みください。
 問い合わせ／教育委員会社会教育課
 Tel.74-2000

第9回スノーフェスティバル 冬の大運動会

2月4日(日)

受付 午前9時30分
 開会式・競技開始 午前10時から
 場 所 運動公園自由広場

対 象
 市内在住または市内在勤者。
 ※幼児は保護者同伴のこと

申込方法

- ★総合体育館受付窓口または電話で
- ★チラシQRコード申込
- ★HPお申込みフォーム
- ★InstagramDM

競技別に上位者には
 賞品を用意しています！
 参加者全員に参加賞を
 お渡しします。

寒さに負けず元気よく運動しよう！

競技種目

- ・スノーフラッグ ・雪中かるた
- ・雪中綱引き ・ひっぱり相撲(一般)
- ・おし相撲(小学生) など

参加料
無料

当日、豚汁を提供いたします

注意事項

- ①天候や会場の積雪状況より、時間短縮・種目変更・開催中止となる場合がございます。中止の場合は、2月2日(日)の午後5時に北斗スポーツクラブホームページに掲載いたします。
- ②持ち物：防寒靴・帽子・手袋・防寒着などを各自準備してください。
- ③当日の写真や動画を、広報等で利用する場合がございますので予めご了承ください。

申し込み・問い合わせ先

1月26日(金)午後5時までに総合体育館まで

電話番号 73-6481

主催／北斗スポーツクラブ
 後援／北斗市教育委員会



「令和2年度成人式」代替事業
北斗市
23歳の大同窓会

久しぶりだね！元気だった？
 ありがとう。
 あの日、伝えられなかった言葉も
 改めて大切な人に
 伝えませんか？

対 象 2000(平成12)年4月2日～
 2001(平成13)年4月1日生まれ

日 時 令和6年1月6日(土)
 10時30分から(開場9時30分)

と ころ 北斗市総合文化センターかなで～る 大ホール

ドレスコードは特にありません。
 スーツやワンピースなど自由な格好でご来場ください。
 おおよその参加人数を把握するため、参加申込みをお願いします。

北斗市教育委員会 社会教育課
 電話：0138-74-2000
 メール：syakyo@city.hokuto.hokkaido.jp

申込はコチラ

令和5年度教育広報編集委員会

- ◎発行責任者 北斗市教育委員会 教育長 永田 裕
 - ◎編集長 北斗市校長会 校長 星 正樹 (石別中学校)
 - ◎編集委員 北斗市教頭会 教頭 岩本 宜之 (石別中学校)
 - 北斗市内教職員 養護教諭 今 香織 (石別小学校)
 - 教諭 塚原 智子 (市渡小学校)
 - 教諭 生田 遼河 (久根別小学校)
 - 教諭 會津 聡子 (茂辺地中学校)
 - 教諭 吉澤 優子 (上磯中学校)
 - 教諭 釘田 芳紀 (北斗高等支援学校)
 - 北斗市学校保健会 養護教諭 大塚 七重 (萩野小学校)
 - スポーツ推進委員会 委員長 安達 孝義
 - 北斗市文化団体協議会 事務局長 小野 育子
- ◎事務局：北斗市教育委員会社会教育課

スポーツ体験フェスティバル in Hokuto

開催日／1月15日(月)
 時間／午後5時45分から午後8時
 会場／総合体育館アリーナ
 参加料／一般700円、会員500円
 種目／ラグビー、野球、バレーボール、ヒップホップなど
 申込期限／1月11日(木)
 問い合わせ／総合体育館 Tel.73-6481